

【環境】 environment surroundings...

今号の特集は環境というキーワードを広い意味で捉え、多方面の方々に書いていただきました。

『多機能浴室ユニット』

(スマートバスルーム)の開発から商品化まで

畑中 淳(部3期)

(株)設計工房フレックス代表取締役

本浴室ユニットの開発は、東京・港区の呼びかけで1990年に設立された異業種交流グループ「プラザみなと90:Uni」のメンバー20社の内、呼びかけに賛同した4社が「1994年度東京都融合化助成事業」の認定を受け、共同事業としてスタートしました。

3年間にわたって、商品開発、基本モデルの製作、商品化の検討、市場調査等の段階を経て本年度から販売の段階を迎えております。建築設計の現場で仕事をしている私にとって在来工法を採用するか、ユニット化された商品を選択するか、多くの場面で決断を迫られますが、それぞれ一長一短があり選択に苦労する場面が少なくありません。

特に、住宅設計での浴室の工法について苦労する場面が多く、以前から使用者の立場から開発された商品がないものかと考えていました。

私たち設計者が商品開発に関与していく事はごくまれなケースであります。又、膨大な開発費用と時間を費やし、過大なリスクを負って商品開発をする事は、私にとって不可能なことでした。

今回は、幸運にも私の提案に対して他3社の社長に賛同していただき、共同事業として進める事が出来ました。

「資金、作業、技術」全ての面で分担する事によって、リスクを最小限にすることが可能となり、商品開発に直接関与する事が可能となったわけです。

以下、開発製品(スマートバスルーム)の特徴について紹介させていただきます。



国際的に関心が集まっている。なお、同会議は本学教授の吉澤先生が会長を務められた。

IAQは、どちらかというと人間に対する負の影響を対象としているが、省エネルギーと快適環境を両立するための局所環境制御システムなどの研究も盛んである。エネルギー問題に関しては、単に個々のシステムの省エネルギー対策だけでは無く、地球環境保全のためのライフサイクルCO2評価やフロン対策技術などの研究が盛んであることは周知であろう。

一方、ビルの最適化に注目して、環境・エネルギー・機器の情報を管理するBEMS(Building and Energy Management System)に代表されるビル運転管理システムの研究や開発も進められている。具体的には、設備機器ネットワークの基準化、故障検知・診断などの保守管理技術の自動化や支援ソフトの構築などである。

また、情報化やコンピュータ化を背景として、空調システムの動的な負荷予測やエネルギーシミュレーションに注目が集まっている。シミュレーション技術は、計画時のシステム評価ツールとして有効なだけでなく、制御の最適化、システムデータの集成、ひいては維持管理・予防保全という環境システムのライフサイクルでのアセスメントに極めて有用であり、今後の発展が望まれる。なお、14期の川島氏は1995年ASHRAE冬季大会において、ニューラルネットワークを用いた負荷予測に関連した論文でポスター論文賞を受賞されている。

以上の様に現在の空気調和設備の研究やシステム化は、単独の対象あるいは技術の領域で完結されるものではなく、環境、エネルギー、人間に係わる要素が有機的に結合されて完成される必要がある。すなわち、地球環境保全、情報化社会での業務の高度化・効率化や自動化、快適性やストレス緩和等の事項が総合的に最適化されることがぜひ必要である。また、利便性の追求と環境保全という一見相反する目的に対し、計画者は知識や高度な技術だけでは無く、世界感や倫理感の確立が以前にも増して求められていると言えよう。

引用文献

1)中原信生:建築設備から環境システムへの展開と課題、空気調和・衛生工学 第70巻 第5号、1996.5

都市環境と建築

水沼 均 (部17期)

デザインファーム建築設計スタジオ主宰

以前、ある出版社からの依頼で「東京ランドマーク」という本を書いたことがある(水沼均編:東京ランドマーク、株式会社オフィステン、1991)。東京都心部に立つ建築のうち代表的なもの160件をピックアップして、写真と文章でその特徴を一般読者向きに平易に解説した、一種のガイドブックのような本であった。

今思うと、建築物を個々に紹介しながらも、私自身はこの本で他ならぬ都市環境と建築空間との接点そのものを追い求めていたように思える。個々の建築が持っている特徴を列挙して紹介する一方で、その背後でこれらをまとめて整理し抽象することで、建築が良き都市要素となるための計画上の要点をわずかでもかいま見ることができればと考えたのである。

そんな考えもあり、上述の本の巻末に後書きのような形で「ランドマークの概念」という一文を付した。ここではその内容を簡単に紹介することで、本紙特集の主旨である「建築と環境」の接点の一つの在り方を提示させていただければと思う。なお本書で私が用いた言葉「ランドマーク」の意味は、おおむね一般通念に習っている。すなわち都市の中で目印あるいは標識となっているような建物を「ランドマーク」と呼んでいる。ある建物がランドマークとして多くの人々に認知されるとき、そこには大きく2種類の理由があるように思う。東京タワーや東京ドームのように、建物の形態や立地などの物的特徴が理由となる場合と、もう一つは、物的特徴よりもむしろその建物の持つ認識的象徴性が理由となる場合(たとえば首相官邸や警視庁など)である。国会議事堂や東京都庁などのように、この両者を併せ持った建築ももちろん数多くある。本書では私は特に前者すなわち物的特徴を持った都市建築に注目した。

物的特徴にはどのようなものがあるであろうか。真っ先に思いつくのは「高い」「大きい」「派手な」など外観からくる特徴であろう。建築物の外観を操作して際立った特徴を与えることで都市の「ランドマーク」たらしめることは、決して特別高度な手法を要するものではない。このことはバブル華やかなりし時に東京の街に咲き誇った幾多の商業建築たちを思い起こしていただければ十分であろう。

私がここで考えたのはむしろ、直接的な形態に過剰に依存することなく建築が良き都市要素として定位できないかということであった。本音を言えば、形態や大ボリュームの操作という建築ならではの特権(?)事項をやたらと振り

回して都市にパッチワークを施す世の傾向に、私自身少々ウンザリしていたところもある。こうした問題提起が、2番目以降の物的特徴へと展開してゆく。

建築がランドマークとなるための2番目の特徴として、私は「角の」「坂の上の」「駅前の」あるいは「水辺の」といった、建築物の敷地（本書では「立地」と表現した）による特徴を挙げた。1番目の「外観」と同様、言われてみれば当たり前のようなことだが、両者には大変深い関係がある。そしてこの関係をいかに捉えるかこそが、建築の設計に関わる者が都市環境に対してとる姿勢の一つの在り方を指し示しているように思えるのである。建築形態の自律性を重視する建築家であれば、敷地の影響を越えたところにある独自の空間を創り出そうとするであろう。また、周辺環境から参照すべき文脈を読みとることを重視する建築家であれば、形態の自律性や完結性に先立つより上位の存在として敷地をとらえるであろう。

それでは具体的に、敷地の持つ特徴をいかにして建築空間に反映させていくべきなのであろうか。いろいろな方法があろう。東京駅のように、突き当たりの敷地に対称形の建築を作って象徴性を高めたり、渋谷の109のように街路の分岐点にシリンダーを立てて流れを視覚的に左右に振り分けるなど、形態を操作することによる手法はまず思いつくところである。しかし、もっと街にやさしく、もっと街に人々を親しませることのできる事柄として、建築のペDESTリアンレベル、すなわち足元をどうデザインするかということを、私は重視して考えた。そしてこれを、建築が良きランドマークとなるための3番目の特徴として位置付けることにした。

街にやさしい建築の足元とはどんなものか。建物自体を街路からセットバックさせて公共の広場を設けるといったもっとも単純な手法から、ピロティやサンクンガーデンなどを多様に組み合わせて少しでも楽しくにぎやかなたまり空間を設けようとする試みまで、様々である。しかしもっとも重要なことは、こうした点的存在としての足元空間が次第に集積されて線状の街路空間を生み出し、さらにこれらの街路空間が時に複雑に絡み合いつつも、やがては都市という面的な存在へと積分されて行くという階層性が、都市には確かに存在しているのだという事実なのではないか。

都市をいかに祝福し、親しみやすい環境へと創って行くか。こうした姿勢を担うべき一翼を、確かに建築家は占めている。けだし、形態の詩人としてか、都市への奉仕者としてか、あるいは・・・。

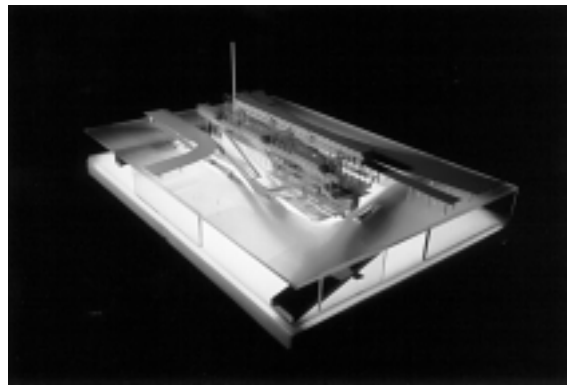
96年度卒業制作・卒業設計

最優秀作品決定！

広瀬 郁氏（部）、原田 賢一氏（部）が卒業制作、卒業設計の最優秀作品に

96年度卒業制作（部）の最優秀作品には、広瀬 郁氏の「3つのパートからなる、大久保二丁目のハブニング」が、卒業設計（部）の最優秀作品には原田 賢一氏の「before wasting away」がそれぞれ選ばれた。

なお 部の卒業制作優秀作品展は4月9日～11日の間、理科大9号館5階製図室で開かれた。外部からも多くの人が見にこられ盛況であった。



広瀬 郁「3つのパートからなる、大久保二丁目のハブニング」



原田 賢一「before wasting away」

from Freshers

建築と埋蔵文化財の間で

貴志 高陽(部18期)
東京都町田市考古資料館

私は慶應義塾大学で考古学を専攻した後、東京都町田市教育委員会に就職し学芸員として勤務しながら東京理科大学2部に学士入学し建築を学びました。元来、建築家を志して編入学したのですが、現在も埋蔵文化財の発掘調査に携わっているため、寄稿のお話を頂いた当初は何を書けばよいのか戸惑いました。そこで思索した末、建築、考古学の両分野にとって鬼門とされている埋蔵文化財について多少の私見を述べさせていただきます。

大部分の建築家は考古学者とは発掘をしたくてしたくてしょうがない人種と思われていますが、開発行為に伴う発掘に限ってはそのような考古学者はまずいません。発掘によって土を取り除く行為自体、例えば学術目的であっても遺跡の破壊には変わらないので、まして開発行為の露払いとして様々な制約下で発掘をするのは調査報告書という名の遺跡の死亡診断書を強制的に書かされていることに他なりません。つまり、建築家も考古学者も発掘を避けたいという気持ちでは全く一致しているのです。

では、どのようにすれば発掘を避けられるのでしょうか。開発区域が遺跡を含んでいたならば、まず試掘をして遺跡が地中でどの範囲まで広がるか、地表面から遺跡が実在する層までどのくらい深さがあるかを把握します。この結果に基づきプラン上では遺跡の無い所に建物を配置し、遺跡が下に存在してもレベル上で遺跡を保護できる適切な切土、盛土を行えば本格調査を避けて建築が可能で(切土、盛土の度合いについては各自治体の指導に従って下さい)。そのためには、建築家の方でも計画の初期の時点で各自治体と協議し遺跡の実状を踏まえて、設計段階で遺跡をその土地の属性として他の建築上の規制と同様に扱ってもらえれば必ず両者にとって満足な結果を得られるものと思います。

建築とは物質だけで構成してつくるものなのでしょうか。私は、世界各地の発掘現場を見、また実際に発掘に携わり、遺跡のむき出しの迫りにしばしば圧倒されてきました。さらに発掘後、埋め戻された荒蕪地からもその地中の様子を想像しただけで同様の想いにかかられます。遺跡が下に存在する、つまり数え切れない年数を、数え切れない人々の営みがその地中に眠っていること自体、その土地に特別な精神的属性を感じます。私も機会があれば是非、設計をしてみたいと思っています。そしてその時、地中に遺跡が存在する場合、その土地の時間軸上のエッセンスを汲み取れるような設計を目指してみたいと思っています。

近況報告

渡部 和代(部32期)
(株)アール・ピー・アイ

晴れて大学生活を卒業し、新社会人生活を始めて、2週間が過ぎようとしています。大学在学中にはいったい何の役に立つのかと自問自答するほど漠然としていた自分の興味が、依頼された仕事というはっきりとした目標に導かれて、少しずつ明らかになっていくのをうれしく思っています。

私は後楽園にある小さな都市計画やまちづくりのコンサルタント会社に就職しました。バイトの人々も含めて数十名ほどですが、とてもアットホームな雰囲気、男女比も上下差も感じられず、ゴミ出しを男の人がすすんで手伝っている姿はほほえましくさえあります。都市計画やまちづくりといっても、産業系、商業系、観光系、自然・文化系などの分野があり、場合によってはいくつか重なり合ったりもしますが、私は歴史の研究室にいたこともあり、自然・文化系のまちづくりに関する仕事を初めにもらいました。ある町の地域振興をエコミュージアム計画によって試みるという調査・企画で、報告書の「エコミュージアムについて」という1項をまかされました。

当分の間は資料を読みこなすことに終始しました。資料をある程度読み終え、概念について何となく理解できたら、マックに向かって文章を打ちはじめます。もっとも、まだ慣れていないので、紙とペンによるメモを数枚用意してから打ち込みとなってしまいましたが、文章が形になれば、図解を加えます。1頁に1図のをのせるぐらい、文章を図化しろといわれました。文章書きの仕事とはいえ、建築出の人はやはり図やレイアウトにこだわりますね。すべての文章と図を最後にページメーカーでレイアウトして終了。たった4枚ほどのレポートでしたが、なんてことはない、卒論のときと全く同じ作業を繰り返していたのです。卒論で経験していると喜ぶべきか、卒論のときもこのくらい密度濃くこなすべきだったと悲しむべきか。

つい最近新しい仕事で、首都圏近郊山村の観光による地域振興計画の企画書作成に携わることになりました。もちろん上の人が指図したり、助言してくれたりしますが、まちづくりにマニュアルはありません。5万分の1の地図を買ってきて貼り合わせ、地図を読むことから始めています。このことも研究室で繰り返してきたことです。あの時ははっきりしていなかったのですが、今になって地図を読むことの必要性が分かってきたように思います。

自分の興味ある分野で、自分に合ったやり方で仕事ができることをうれしく思うと同時に、今思えば、今やっていることに大変近い貴重な考え方や手の動かし方を、粘り強く教えて下さった伊藤UQ先生に深く感謝しています。

OBのオフィス訪問

“現場モード”から抜けるのに苦労

今野 法一氏(部21期)
ハザマ(ハザマユニオン)

晴天の霹靂で昨年8月、労働組合の中央執行委員となった。担当するのは福利厚生分野。社宅や寮の問題、単身赴任者の処遇、健康管理など、実務部隊をサポートする裏方にまわった格好だ。

最近の大きな課題として、単身赴任者の帰省の問題があるという。「現場へ週休2日制が浸透するにたがって、単身赴任の社員が毎週のように帰省できるようになった。このこと自体はよいことなのだが、帰省旅費を会社にどう負担してもらうかなど、新しく考えなければならない問題が出てきた」。さらに公共工事の分野では、発注者側が「同種工事の経験を持つ技術者」の配置を求めようになったため、特殊工事を中心に技術者の全国的な単身赴任が増えつつあるという。

入社してから大半は東北の工事現場で過ごした。同期の人数が少ないので「いつかは」と覚悟していたものの、それまでの現場勤務と比べると仕事の内容が180度変わった。厚生年金の仕組みや高齢化社会の問題など、これまで縁遠かった諸問題を一から勉強しなければならぬ。

そのなかでも一番変わったのは「やっぱり身体を動かさなくなかったこと」。まだ現場モードから抜け出せず四苦八苦しているという。「こんなに頭を使うのは大学の研究室時代以来。ワープロやパソコンを使いこなせるようになった代わりに、半年で体重が5kg増えた」と笑いながら「とはいっても、現場で仕事に追われているときは違った広い視点から建築を見渡せる利点がある」と一言。

「成長前提の経営が崩れ、ゼネコンも転換期を迎えている。うちの会社自体も受注額優先から利益優先に経営方針を転換しつつある。建築にかかわる技術者の仕事も変わる」という感触を手に入れた。(安達 功)



間に向けて資料をまとめている最中

地方だより

from NIIGATA

金子 英二(部12期)
立川ブラインド工業(株)

新潟に転勤になり三年が過ぎました。新潟市は人口五十万の日本海側では最大の都市です。東京と比べると、都市がコンパクトにまとまっていて、必要なものが手近にあり、暮らしやすい都市です。勤務地は安田町で、温泉郷のある五頭連峰と阿賀野川に囲まれた、風光明媚な田園地帯です。私の事務所の窓からは山や川、ときにはキジの姿が見え、ウグイスの鳴き声が聞こえます。東京で生まれ育った私には、あまりの自然の豊かさに驚かされます。そして、豊かな自然以上に驚きと感銘を受けたのは、新潟の食べ物の美味しさです。

南魚沼地方と岩舟地方のこしひかり、佐渡と日本海近海の海の幸、洋梨レクチェ、そして地酒です。幻の銘酒、越乃寒梅と雪中梅。人気銘柄、八海山と久保田。どれも新潟を代表する銘酒で、淡麗辛口、のど越しが良く切れがあり、雑味が少なく淡きこと水の如しの特長を備えています。この特長が時流にのり、全国的に消費の低迷が続いている日本酒の中で、新潟の酒は消費が増え、蔵元は増産をしています。新潟の蔵元の件数は、兵庫県の灘が地震の被害を受け減少し、現在全国一位です。

新潟の人気銘酒は、市内のほとんどの飲食店で、良心的な価格で飲むことができ、俗に観光銘酒ともいわれます。しかし、酒販店での購入では越乃寒梅など、プレミアが多少つくものもあります。他に有名な銘柄では、漫画の美味しんぼに紹介された新潟市の越の華の大吟醸、五泉市の近藤酒造の純米酒、越乃鹿六があります。漫画の夏子の酒では、和島村の大変きれいな蔵元久須美酒造がモデルになっています。この蔵で仕込む大吟醸亀の翁は最も入手できないお酒です。

私の好みの晩酌酒を何点が紹介いたします。吟醸作りで華やかな香りがあり、フルーティーな味わいの2500円前後の銘柄です。村上市のメ張鶴、銘柄は特撰及び吟撰。津川市の麒麟山、銘柄は生きりん。新潟大学の近く内野町にある鶴の友、家が越後の貴婦人と名付けた銘酒、上々諸白と特撰。栃尾市の原生林トトの杜の湧水で仕込む景虎、銘柄は名水仕込。長岡市の大手蔵元吉乃川の傑作、銘柄は極上。妙高高原の近く新井市の千代の光、銘柄は天福。これらは入手のしやすい銘柄です。この様な上品できれいなお酒が、沢山あることが新潟のすごさです。

新潟市のとなりに巻町があります。原子力発電所の建設を住民運動で反対し話題になった町です。私は原子力発電に反対ではないですが、巻町に建設するのは反対です。地ビールの草分けで、日本のビールで初めて国際コンクールで受賞したエチゴビールがありま

す。ピールにも香りと味があるのを教えてください。ワイン蔵カーブドッチもあります。ブドウの苗植えやブドウ摘みを体験し、出来たワインを飲み、ブドウとワインの味の関係を知り、より深くワインを楽しむことを教えてください。どちらも豊かな自然の中にあります。原子力発電所は風景に調和しません。

飲んべえで食いしん坊の私は、週末になると家内を助手席に乗せ、酒蔵や市場に車を走らせます。両親とも東京出身で田舎のなかった私に、故郷ができた思いです。

新潟に旅行や出張で来られたら、充分に酒と肴をお召し上りください。

第8回築理会総会・懇親会開かれる

八木会長、坂下副会長、留任



第8回築理会総会・懇親会がさる3月8日(土)理窓会館3階会議室、出席者37名(委任状98名)で開催された。

総会では八木会長の挨拶の後、会長、副会長の選出に移ったが、八木会長、坂下副会長の留任が拍手をもって承認された。その後懇親会に移り、学科主任の松崎先生はじめ、平野先生、鈴木先生、真鍋先生のご出席をいただき和やかに歓談することができた。遠くは倉敷や大阪から駆けつけた会員もあり、2年に一度仲間や先生方にお会いできるのを楽しみにしていると聞かれた。このような機会がないと、なかなか会えない人たちも多いので、総会・懇親会は十分に意義があるだろう。ただ、出席数はちょっと寂しい。次回には同期の人たちに声を掛け合って、ぜひ多くの会員の参加を望むところである。

なお当日、97年版の築理会名簿も配布された。その後、会員の皆様にも発送されたのでお手元に届いていることと思う。残部はまだ100部程度残っているの

まだ会費を払われてない方は、ぜひ納入されて名簿を受け取って頂きたい。名簿は今回から大判(A4)になり、地方別索引も付いて使い易くなってる。

参加された会員の方に感想を寄せて頂きました。

総会・懇親会に参加して

森重 佳代子(部26期)
竹中不動産 デザイン事業部

先日、築理会同窓会に参加させて頂きました。飯田橋駅のホームに降り立った時から私の同窓会は始まりまして。ここ数年、桜の季節に立ち寄り以外すっかりご無沙汰でしたが、久しぶりの神楽坂は、今も変わらず豊かな坂でした。見知らぬ顔をするでもなく、頑なに昔を守り続けるでもなく、今の時代を自然に生きている街。学生時代はゼミと称してよく散策をしました。石畳の続く路地裏探索やちょっと静かなレストランの発見、商店街の人や猫との出会い・疲れたらお茶を飲みまた街を愉しむ。そんな時間を忘れないでいたいと思います。

会場には教授陣の懐かしいお顔が並び、学生時代とはまた違う会話で盛り上がりまして。最初は顔を覚えて頂いた事を喜んで居りましたが、講義の印象が一番大きいというのは少し寂しい事なのかも知れません。先生方はいろんな角度から生徒を見ていて下さったのだと改めて思います。

松崎先生とのお話の中、ある提案を頂きました。最近では女性の建築学科人気も高まり諸先輩方も多方面でご活躍中です。どうしてこの交流を大切にしないのかと私の入学した87年には全学年の女性だけが集まる「茶話会」がありました。卒業後、皆どんな道をどんな人生観で歩いていらっしゃるのでしょうか。そんな風に思いを巡らせる機会を頂き、充実した時間は過ぎてゆきました。幹事の皆様、そして今回参加のきっかけを与えて下さった先輩、有難うございました。



インフォメーション

97年度「築理会研究セミナー」上半期の予定
今回は昨年度新しく理科大にいられた二先生にご講演頂
けることになりました。

また、今年度から、雑誌等にも公示することにし、広く一
般の方々にも参加頂けるよう開かれた形態をとることにな
りました。

職場の方々等お誘い合わせの上、奮ってご参加頂ければ
と思います。

第1回 5/23(金) 志水 英樹 先生
「イタリア丘陵都市を歩く(スライド講演会)」

第2回 7/4(金) 安岡 正人 先生
「見えない環境 - 電磁波 - 」

場所：理容会館 3階会議室

時間：19:00～20:30

会費：一般 2000円 築理会員 1000円

理科大学生 無料

(尚、築理会員で今年度年会費未納者は、一般料
金になります。)

築理会年会費納入特典

特典1：築理会名簿が毎年発行に

年1回最新の名簿があなたのお手元に届きます。い
ままで連絡がとれなかった人にもすぐにACCESSで
きます。

特典2：築理会セミナー参加費が50%OFF

セミナーの参加費2000円を1000円に割引
参加すればするほどお得。

編集後記

先日、「ウルトラマンゼアス2」を観にいきました。子供向
けの映画なので、内容について論ずるつもりはありません
が、CGの技術については、日本の映画も相当の金と時間を
費やして来ている感を受けました。実写とCGの合成が、既
存の町並にゼアスやシャドウをオーバーラップさせること
に今まで以上のリアリティを生み、かつ、建物の破壊(これ
は模型が)も重ねあわせていくことで、巨大なゼアスが街中
でのロケを敢行しているかの効果を産み出していました。

建築のCGについても同様のリアリティを求めるべき
か、根本的な問題ではありますが、現物と画像のリアリティ
の境界線がものすごく希薄なものになりつつあることは確
かだと思えます。(伊谷 峰)

築理会報97春号

97年5月発行 Vol.18

編集長：伊谷峰

編集委員：森清、伊藤学、安達功、

渋川克也、平賀一浩

印刷発送：グローバルシステム株式会社

平成9年会費納入のお願い

現在会費の納入をお願いしております。本年より築理会
では、会員の皆様にもさらに会費納入をして頂けるよう、納入
者の方々へのメリット増大に取り組みました。詳しい内容
はインフォメーション欄に掲載しております。

未納の方には振込用紙を同封しております。

今後の築理会発展のためにご協力をお願いします。

年会費 5,000円

口座名 築理会

郵便振替 00110-5-171952

銀行振込 三菱銀行神楽坂支店 普通 433597

募集します！

会報委員会では、築理会報の各コーナーへの記事を募集
しています。「こんな特集して!」や「こんな宣伝がしたい!」
「最近これおもしろいよ!」など、どんな些細な情報でも首を
長くしてお待ちしております。また、建築にこだわらず、お
いしい料理の作り方や、うまいラーメン屋情報、あなたの楽
しい旅行記、その他なんでも載せていきたいのでごんごん
お寄せください。

そして、この会報作成に携わりたい人も募集します。あな
たも一緒にビールを飲みながら、会報を作ってみませんか。
築理会あてFAXにてお知らせください。

データ確認カード返送のお願い

住所、職場、部署等に変更のございます方は、下記データ
確認カードにご記入の上、築理会事務局までご返送下さい
ますようお願い致します。

最新データに基づいた名簿作成、編集のためご協力をお
願い致します。

送付先：建築学科事務室内・築理会事務局

名簿作成委員会

築理会員データ確認カード		記入日：19 / /	
ふりがな：		卒業年	年3月
名前：(旧姓)		(期 研)	
		<input type="checkbox"/> 部	<input type="checkbox"/> 部
ふりがな/勤務先：			
ふりがな/部署・役職：	TEL		
	FAX		
電子mail：			
現住所：(〒)			
	TEL	FAX	
電子mail：			
現住所以外の安定的な連絡先、具体的な連絡方法及びTEL：			
所属学会	<input type="checkbox"/> 日本建築学会	<input type="checkbox"/>)	
<input type="checkbox"/>)	<input type="checkbox"/>)	<input type="checkbox"/>)	
通信欄			

お手数ですが拡大コピーをしてFAXにてお送りください。